

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19)世界知的所有権機関
国際事務局



(43)国際公開日
2005年10月13日 (13.10.2005)

PCT

(10)国際公開番号
WO 2005/095613 A1

(51)国際特許分類⁷: C12N 15/12, A61K 31/282, 31/7088,
33/24, 35/76, 38/00, 45/00, 48/00, A61P 35/00, 43/00

(21)国際出願番号: PCT/JP2005/006075

(22)国際出願日: 2005年3月30日 (30.03.2005)

(25)国際出願の言語: 日本語

(26)国際公開の言語: 日本語

(30)優先権データ:
特願2004-098839 2004年3月30日 (30.03.2004) JP

(71)出願人(米国を除く全ての指定国について): ジェノメディア株式会社 (GENOMIDEA INC.) [JP/JP]; 〒5670085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号 Osaka (JP).

(72)発明者: および

(75)発明者/出願人(米国についてのみ): 金田 安史 (KANEDA, Yasufumi) [JP/JP]; 〒5620031 大阪府箕面市小野原東6-12-8 Osaka (JP).

(74)代理人: 清水 初志, 外 (SHIMIZU, Hatsuji et al.); 〒3000847 茨城県土浦市卸町1-1-1 関鉄つくばビル6階 Ibaraki (JP).

(81)指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84)指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

- 国際調査報告書
- 電子形式により別個に公開された明細書の配列表部分、請求に基づき国際事務局から入手可能

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイドスノート」を参照。



A1

(54) Title: Rad51 EXPRESSION INHIBITOR, DRUG CONTAINING THE INHIBITOR AS THE ACTIVE INGREDIENT AND UTILIZATION THEREOF

(54)発明の名称: Rad51の発現抑制剤、該発現抑制剤を有効成分として含む医薬、及びその使用

(57) Abstract: A double-stranded RNA having a specific base sequence is useful in treating a cell proliferative disease. This double-stranded RNA serves as the siRNA of Rad51 gene. This double-stranded RNA per se inhibits cell proliferation. When administered together with a chemotherapeutic agent, the double-stranded RNA further enhances the pharmacological effect. It is particularly effective to use the double-stranded RNA together with a drug having an effect of inhibiting the synthesis of a nucleic acid or an effect of injuring a nucleic acid.

(57)要約: 特定の塩基配列を有する2本鎖RNAが、細胞増殖性疾患の治療に有用である。この2本鎖RNAは、Rad51遺伝子のsiRNAとして作用する。本発明における2本鎖RNAは、それ自身が細胞増殖を抑制する。また本発明の2本鎖RNAを化学療法剤とともに投与することによって、その薬理作用を更に増強する。核酸合成阻害作用、あるいは核酸障害作用を有する薬剤との併用は、特に効果的である。

WO 2005/095613 A1

明 細 書

Rad51の発現抑制剤、該発現抑制剤を有効成分として含む医薬、及びその使用

技術分野

[0001] 本発明は、Rad51の発現抑制剤、該発現抑制剤を有効成分として含む医薬、該医薬を調製する方法、あるいはがんまたは悪性腫瘍の治疗方法に関する。

背景技術

[0002] ここ10余年来、日本における死亡原因の第1位はがんによって占められている。がん細胞は、細胞分裂の制御機構に異常を生じた細胞が、際限の無い分裂増殖を開始した状態と説明することができる。がん細胞の無秩序な増殖が正常な組織やその機能を障害する疾患が、がんである。

[0003] がんの治療には、物理科学的な治療、外科的な治療、および投薬による治療などを行われている。物理科学的な治療は、放射線や陽子線をがん病巣に照射し、その細胞障害作用によって、がん細胞を攻撃する。外科的な治療は、固形がんを手術によって取り除く治療方法である。投薬による治療は、がん細胞の生存あるいは増殖に対して阻害的に作用する薬剤の投与によって行われる。

[0004] 化学的に合成された化合物、あるいはヒト以外の生物から単離された化合物を有効成分として含有する薬剤の投与によってがんを治療する方法は、特に化学療法(chemotherapy)と呼ばれている。化学療法に用いられる薬剤が、化学療法剤(chemotherapeutic agent)である。更に化学療法剤は、その作用によって以下のよう分類することができる。

[0005] 制がん剤(carcinostatic agent): がん細胞の増殖を抑制する作用を有する薬剤。がん細胞は、その無秩序な増殖が疾患の原因となっている。したがって、たとえがん細胞を死滅させることができなくとも、増殖を抑制することが可能であれば、治療効果を期待できる。

抗がん剤(anticancer agent): 制がん剤ががん細胞の増殖を抑制するのに対して、がん細胞に対して殺傷効果を有する薬剤を特に抗がん剤と言う。制がん剤ではがん

の拡大は抑制されるが、縮退効果は小さい。これに対して抗がん剤においては、がんの縮退効果が期待できる。抗がん剤は制がん剤に含まれる概念である。

抗腫瘍剤(antitumor agentまたはantineoplastic agent)：制がん剤あるいは抗がん剤は、がん、すなわち悪性腫瘍に対する作用を有する薬剤を指す用語である。これに対して抗腫瘍剤は、良性腫瘍を含む腫瘍全般に対する作用を有する薬剤を言う。抗腫瘍剤は、増殖性細胞 (proliferative cell) を抑制する薬剤とも言える。

[0006] その他、宿主に抗腫瘍免疫を誘導する、いわゆるがんワクチンや、免疫増強剤の投与も、投薬による治療に含まれる。更に、がんを傷害する抗体、あるいはがんに結合する抗体を細胞障害性化合物で標識した抗体の投与も、投薬による治療に含まれる。これらの治療方法は、がんの種類、進行状態、そして宿主の状態などを考慮して、適切な治療方法が選択される。また、一般にこれらの治療方法は、複数の治療方法が併用される。

[0007] 更に、がんの発生や増殖に関する遺伝子の発現を調節によるがんの治療は、既に臨床応用が検討されている。たとえば以下の遺伝子の発現阻害による、がんの治療が公知である。遺伝子の発現阻害には、アンチセンスやリボザイムが利用された。

c-myc

H-ras

c-rafキナーゼ

[0008] その他に、がんが有する細胞の修復機構の阻害によって、がんの治療効果を高める試みも報告された。細胞は、電離放射線やある種の抗がん剤によっておこるDNAの損傷を修復する機構を備えている。たとえば、相同組換え修復機構、あるいは非相同組換え修復機構は、DNA二本鎖の切断を修復する。相同組換え修復機構においては、2本鎖切断時に相同染色体や姉妹染色体分体を鋳型として組換えが行われ、切断部分が修復される。相同組換え修復に必要な酵素として次のような酵素が知られている。これらの酵素の中で、Rad51の発現をアンチセンスオリゴヌクレオチドで抑制すると腫瘍の放射線感受性を増強できることが知られている(US 2003/0229004、WO 03/13488)。更にRAD51の阻害によってp53の遺伝子治療効果が高まることも公知である(WO 02/58738)。

Rad51 Rad52 Rad54 Rad51B Rad51C Rad51D
XRCC2 XRCC3

[0009] 一方、遺伝子の発現制御技術としてRNA干渉 (RNA interference; RNAi) が注目されている。RNAiは、mRNAと同じ塩基配列を含む2本鎖構造を有するRNAによって、そのmRNAが切断される結果、蛋白質の発現が抑制される現象である(Nature, 1998 Feb 19; 391 (6669): 806–11; Nature, 2001 May 24; 411 (6836): 494–8)。同じ遺伝子の発現制御技術であるアンチセンスオリゴヌクレオチドによる発現抑制効果と比較して、その効果は 10^3 ～ 10^7 倍に及ぶと報告されている(Biochem. Biophys. Res. Commun. 296: 1000–1004, 2002)。RNAi効果を示す2本鎖RNAを、特にsiRNA (small interfering RNA) と呼ぶ。たとえば、その変異ががんの原因となっていることが知られている以下のような遺伝子について、siRNAによるがんの治療効果が明らかにされている。

k-ras (Nucleic Acids Res., 31: 700–707, 2003)

p53 (Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 99: 14849–14854, 2002)

特許文献1:US 2003/0229004

特許文献2:WO 03/13488

特許文献3:WO 02/58738

非特許文献1:Fire A. et al., Nature, 1998 Feb 19; 391 (6669): 806–11

非特許文献2:Elbashir SM. et al., Nature, 2001 May 24; 411 (6836): 494–8

非特許文献3:Biochem. Biophys. Res. Commun. 296: 1000–1004, 2002

非特許文献4:Nucleic Acids Res., 31: 700–707, 2003

非特許文献5:Martinez LA et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 99: 14849–14854, 2002

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0010] 本発明の課題は、細胞増殖性疾患の治療技術の提供である。より具体的には、本発明は、Rad51の発現制御によるがんの治療技術の提供を課題とする。

課題を解決するための手段

- [0011] Rad51は、大腸菌のRecAの哺乳類におけるホモログである。Rad51をノックアウトしたマウスは、胎生致死となることが報告されている。これらの情報から、Rad51が生体で極めて重要な機能を果たしていることが強く示唆されている。更に、Rad51の発現をアンチセンスオリゴヌクレオチドで抑制すると、腫瘍の放射線感受性を増強できることが知られている。
- [0012] 本発明者らは、Rad51のsiRNAによる発現抑制を実現すれば、腫瘍の治療に有用であると考え、効果的なsiRNAの探索を重ねた。その結果、配列番号:1に記載の塩基配列を含む2本鎖RNAが、Rad51のsiRNAとして有効であることを見出した。更に、当該siRNAと化学療法剤との併用によって著しい細胞増殖抑制作用が見られることを明らかにした。加えて本発明者は、siRNAあるいは化学療法剤との組成物の投与に、ウイルスエンベロープベクターの利用が有利であるを見出した。すなわち本発明は、以下の医薬組成物、あるいはsiRNAとして有用な2本鎖RNA、並びにそれらの使用に関する。
- [0013] [1]配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAであって、センス鎖の長さが100塩基以下である2本鎖RNA。
[2]配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAであって、センス鎖の長さが100塩基以下である2本鎖RNAを発現するベクター。
[3] [1]に記載の2本鎖RNA、または[2]に記載のベクターを有効成分として含有する、Rad51遺伝子の発現抑制剤。
[4] Rad51遺伝子がヒトRad51遺伝子である[3]に記載のRad51遺伝子の発現抑制剤。
[5]配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNA、またはそれを発現することができるベクターを有効成分として含有する医薬組成物。
[6]配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNA、またはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物。
[7]がんまたは悪性腫瘍の治療用である[6]に記載の医薬組成物。
[8]化学療法剤が、制がん剤(carcinostatic agent)、抗がん剤(anticancer agent)、お

および抗腫瘍剤(antitumor agentまたはantineoplastic agent)からなる群から選択される[6]に記載の医薬組成物。

[9]化学療法剤が、核酸合成阻害作用、および核酸障害作用のいずれか、または両方を有する化学療法剤である[6]に記載の医薬組成物。

[10]化学療法剤が、ブレオマイシン類、アントラキノン系制がん剤、マイトイシン類、アクチノマイシン類、カンプトテシン類、シスプラチン類、ストレプトゾトシン、5-フルオロウラシル(5-FU)およびその誘導体、ピラルビシン、およびそれらの薬理学的に許容される塩からなる群から選択されるいづれかの化合物の少なくとも1つである、[6]に記載の医薬組成物。

[11]ブレオマイシン類が、ブレオマイシン、およびペプロマイシンからなる群から選択されるいづれかの化合物である[10]に記載の医薬組成物。

[12]ブレオマイシン類の薬理学的に許容される塩が、塩酸ブレオマイシン、硫酸ブレオマイシン、および硫酸ペプロマイシンからなる群から選択されるいづれかの化合物である、[10]に記載の医薬組成物。

[13]シスプラチン類が、シスプラチン、パラプラチン(Paraplatin)、およびブリプラチン(Briplatin)からなる群から選択されるいづれかの化合物である、[10]に記載の医薬組成物。

[14]化学療法剤が、2本鎖RNAとともにウイルスエンベロープベクターに封入されていることを特徴とする、[6]に記載の医薬組成物。

[15]ウイルスエンベロープベクターが、レトロウイルス科、トガウイルス科、コロナウイルス科、フラビウイルス科、パラミクソウイルス科、オルトミクソウイルス科、ブニヤウイルス科、ラブドウイルス科、ポックスウイルス科、ヘルペスウイルス科、バキュロウイルス科、およびヘパドナウイルス科からなる群から選択される科に属するウイルスのエンベロープで構成されている、[14]に記載の医薬組成物。

[16]ウイルスエンベロープベクターが、センダイウイルス、レトロウイルス、アデノウイルス、アデノ随伴ウイルス、ヘルペスウイルス、ワクシニアウイルス、ポックスウイルスマまたはインフルエンザウイルスからなる群から選択されたいづれかのウイルスのエンベロープで構成されている、[14]に記載の医薬組成物。

[17] (a)配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAを有効成分として含有する医薬組成物、及び(b)化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。

[18] (a)配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAを発現することができるベクターを有効成分として含有する医薬組成物、及び(b)化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。

[19]がんまたは悪性腫瘍の治療用である[17]または[18]のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

[20]化学療法剤が、制がん剤(carcinostatic agent)、抗がん剤(anticancer agent)、および抗腫瘍剤(antitumor agentまたはantineoplastic agent)からなる群から選択される[17]～[19]のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

[21]化学療法剤が、核酸合成阻害作用、および核酸障害作用のいずれか、または両方を有する化学療法剤である[17]～[19]のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

[22]化学療法剤が、ブレオマイシン類、アントラキノン系制がん剤、マイトマイシン類、アクチノマイシン類、カンプトテシン類、シスプラチン類、ストレプトゾトシン、5-フルオロウラシル(5-FU)およびその誘導体、ピラルビシン、およびそれらの薬理学的に許容される塩からなる群から選択されるいづれかの化合物の少なくとも1つである、[17]～[19]のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

[23]ブレオマイシン類が、ブレオマイシン、およびペプロマイシンからなる群から選択されるいづれかの化合物である[22]に記載の組み合わせ物。

[24]ブレオマイシン類の薬理学的に許容される塩が、塩酸ブレオマイシン、硫酸ブレオマイシン、および硫酸ペプロマイシンからなる群から選択されるいづれかの化合物である、[22]に記載の組み合わせ物。

[25]シスプラチン類が、シスプラチン、パラプラチン(Paraplatin)、およびブリプラチン(Briplatin)からなる群から選択されるいづれかの化合物である、[22]に記載の組み合わせ物。

[26]2本鎖RNAが、ウイルスエンベロープベクターに封入されていることを特徴とす

る、[17]または[18]のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

[27]ウイルスエンベロープベクターが、レトロウイルス科、トガウイルス科、コロナウイルス科、フラビウイルス科、パラミクソウイルス科、オルトミクソウイルス科、ブニヤウイルス科、ラブドウイルス科、ポックスウイルス科、ヘルペスウイルス科、バキュロウイルス科、およびヘパドナウイルス科からなる群から選択される科に属するウイルスのエンベロープで構成されている、[26]に記載の組み合わせ物。

[28]ウイルスエンベロープベクターが、センダイウイルス、レトロウイルス、アデノウイルス、アデノ随伴ウイルス、ヘルペスウイルス、ワクシニアウイルス、ポックスウイルスまたはインフルエンザウイルスからなる群から選択されたいずれかのウイルスのエンベロープで構成されている、[26]に記載の組み合わせ物。

[29][1]に記載の2本鎖RNA、または[2]に記載のベクターを細胞に投与する工程を含む、Rad51の発現抑制方法。

[30]配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を投与する工程を含む、がんまたは悪性腫瘍の治療方法。

[31]2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を投与する工程が、2本鎖RNAおよび化学療法剤が封入されたウイルスエンベロープベクターを投与する工程である、[30]に記載の治療方法。

[32]2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を投与する工程が、2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクターを有効成分として含有する医薬組成物、及び化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物を別々に投与する工程である、[30]に記載の治療方法。

[33]がんまたは悪性腫瘍を治療するための医薬組成物の調製のための、[1]に記載の2本鎖RNA、または[2]に記載のベクターの使用。

[34]医薬組成物が化学療法剤を含む、[1]に記載の2本鎖RNA、または[2]に記載のベクターの使用。

[35]ブレオマイシンまたはその薬学的に許容される塩、およびRad51インヒビターを含む、医薬組成物。

[36]シスプラチンまたはその薬学的に許容される塩、およびRad51インヒビターを含む、医薬組成物。

[37](a)プレオマイシンまたはその薬学的に許容される塩を有効成分として含有する医薬組成物、および(b)Rad51インヒビターを有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。

[38](a)シスプラチンまたはその薬学的に許容される塩有効成分として含有する医薬組成物、および(b)Rad51インヒビターを有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。

[39]がんまたは悪性腫瘍の治療用である[37]または[38]のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

発明の効果

[0014] 本発明により、Rad51のsiRNAとして有用な2本鎖RNAが提供された。本発明の2本鎖RNAは、Rad51の発現を効果的に抑制する。本発明の2本鎖RNAは、がん細胞の増殖抑制剤として有用である。あるいは放射線や陽子線の照射によるがんの治療方法において、その治療効果を高める効果を有する。Rad51のアンチセンスががんの放射線に対する感受性を増強することが知られている。本発明の2本鎖RNAは、アンチセンスよりもはるかに強力に遺伝子発現を抑制する。したがって、放射線に対する感受性の増強効果もより強力であると予測される。

また本発明の2本鎖RNAは、化学療法剤との併用によって、更に顕著な制がん作用を示す。すなわち本発明によって、2本鎖RNAと化学療法剤を含む医薬組成物が提供された。本発明の医薬組成物は、がんの治療に有用である。

図面の簡単な説明

[0015] [図1]5種類のRad51 siRNAの標的部位を示した図である。siRNA 321、462、989、89、及び828は、それぞれ配列番号:1、2、3、4、及び5に対応する。siRNA 321(配列番号:1)のみで発現抑制効果が見られ、他のsiRNAでは抑制効果は見られなかつた。

[図2]siRNAによるRad51のノックダウンを示す写真である。HVJエンベロープベクターによりRad51 siRNA (ターゲット321) をHeLa細胞に導入し、Rad51蛋白の発現を経日

的に調べた。対照として、スクランブルsiRNA（配列番号:6）を用いた。蛋白質量の内部標準として β -アクチンを検出した。Rad51 siRNA(321)は、長期にわたってRad51蛋白の発現を抑制できることが示されている。

[図3]アンチセンスオリゴ核酸に対するsiRNAの優位性を示す写真である。(A) Rad51 siRNA(321)、スクランブル配列(配列番号:6)からなるsiRNA(SC siRNA)、またはウイルスベクターのみ(Empty HVJ-E)をそれぞれ導入したHeLa細胞のノーザンプロットを示す。(B) 同様に、従来使われてきたRad51のアンチセンスオリゴ核酸(Rad51 AS#1またはRad51 AS#2)またはRad51のアンチセンスオリゴ核酸のスクランブル配列(SC AS)をそれぞれ導入したHeLa細胞のノーザンプロットを示す。

[図4]Rad51 siRNAとブレオマイシンとの併用による抗腫瘍効果を示す図である。(A) 実験のスケジュールを示す。(B) Rad51 siRNA (ターゲット321) (Rad51 siRNA) または対照のスクランブルsiRNA (SC siRNA) をHVJエンベロープベクターによりそれぞれ導入したがん細胞における生存細胞数を示す。Rad51 siRNA(321)の導入は、抗がん剤効果を約2倍増強することが示されている。

[図5]Rad51 siRNAによるがん細胞のシスプラチニン感受性の増強を示す図である。(A) 実験のスケジュールを示す。(B) HVJエンベロープベクターにより、Rad51 siRNA (ターゲット321)(HVJ-Rad51 siRNA) または対照のスクランブルsiRNA (HVJ-SC siRNA) をHeLa細胞に導入し、経日的に細胞相対数の変化を調べた細胞増殖曲線を示す。(C) また、シスプラチニンを図示した濃度で添加し、相対コロニー数を調べたコロニー形成能を示す。Rad51 siRNAとシスプラチニンとの併用により、がん細胞のコロニー形成が有意に抑制されることが示されている。

[図6]Rad51 siRNA(321)及びシスプラチニン(CDDP)の併用による、各種ヒトがん細胞のシスプラチニン感受性の増強を示す図および写真である。(A) 各種ヒトがん細胞として、PANC-1 (pancreatic cancer)、AsPC-1 (pancreatic cancer)、A549 (lung cancer)、DU145 (prostate cancer)、MCF7 (mammary carcinoma)、及びHeLa S-3 (cervical cancer)における蛋白レベルを示す。内部標準として用いたKu70及び β アクチンはほぼ同レベルであるのに対し、Rad51蛋白レベルは様々であることが示されている。(B) siRNAに加えてCDDP (0.1 μ g/ml)を投与した場合の細胞の生存率を示す。対照の

スクランブルsiRNA (SC siRNA + 0.1 μ g/ml CDDP) の場合は80% 以上の細胞が生存したのに対し、Rad51 siRNA (321)(Rad51 siRNA + 0.1 μ g/ml CDDP) の場合はどのがん細胞においてもCDDP感受性が30%以上増加した。

[図7]Rad51 siRNA (321)を正常ヒト細胞またはがん細胞に導入したときの、シスプラチニン(CDDP)感受性の変化を示す図である。(A)Rad51 siRNA (321)を導入したヒト正常2倍体纖維芽細胞 (Normal human diploid fibroblast、NHDF) またはHeLa細胞におけるシスプラチニン濃度依存性を示す。NHDFでは、シスプラチニン濃度の上昇に伴う感受性の変化は観察されず、約90%の細胞が生存していたのに対し、HeLa細胞ではCDDPの濃度依存性に感受性が増強された。(B)Rad51 siRNA (321)を導入したNHDFまたはHeLa 細胞において、CDDPの有無によるアポトーシスの率の相違を、アネキシンV(AnnexinV)陽性細胞の割合として測定した。CDDP非存在下(Rad51 siRNA + Medium)ではアポトーシス細胞の率はHeLa細胞 ($4.0 \pm 1.1\%$) とNHDF ($3.2 \pm 0.5\%$) とで変化がなかった。しかしCDDP存在下(Rad51 siRNA + 0.1 μ g/ml CDDP)では、アポトーシス細胞の率はHeLa細胞で 15.0%に増加したのに対し、NHDFではほとんど増加しなかった(4.9%)。

[図8]Rad51 siRNA (321)とシスプラチニンとの併用によるインビボにおける抗腫瘍効果を示す図である。マウスにHeLa細胞を移植して形成させた腫瘍塊に、Rad51 siRNA (ターゲット321) (Rad51 siRNA) 、対照のスクランブルsiRNA (SC siRNA) をHVJエンベロープベクターにより導入し、さらにシスプラチニン (CDDP) を腹腔内投与して腫瘍体積の変化を調べた。Rad51 siRNA (321)とシスプラチニンの併用により、腫瘍増殖が完全に抑制できることが示されている。

発明を実施するための最良の形態

[0016] 本発明は、配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAであって、センス鎖の長さが100塩基以下である2本鎖RNAに関する。本発明の2本鎖RNAを構成するセンス鎖の長さは、少なくとも19塩基(配列番号:1)、通常19~50塩基、たとえば19~30塩基、好ましくは19~25塩基、あるいは19~23塩基である。本発明の2本鎖RNAを構成するセンス鎖の塩基配列には、2本鎖RNAがRad51の発現を抑制する機能を有する限り、ヒトRad51のmRNAを構成する塩基配列と完全に同

一でない塩基配列が含まれる。たとえば、1－5塩基の変異は許容される。より具体的には、配列番号:1における1塩基の変異は許容される。

- [0017] 本発明の2本鎖RNAにおいて、センス鎖の塩基配列が配列番号:1に記載の塩基配列よりも長い塩基配列で構成される場合には、配列番号:1の塩基配列に対して任意の塩基配列が付加される。本発明において、配列番号:1の塩基配列に付加される塩基配列は、好ましくは、ヒトRad51のmRNAを構成する塩基配列から選択することができる。配列番号:1に示した塩基配列は、ヒトRad51のmRNAを構成する塩基配列中、321～339塩基に相当する領域の塩基配列である。したがって、当該領域を含む連続する塩基配列は、本発明における付加される塩基配列として好ましい。
- [0018] 更に、本発明の2本鎖RNAを構成するアンチセンス鎖は、センス鎖に対して高度な相補性を有する塩基配列で構成される。本発明において高度な相補性とは、たとえば90%以上、通常95%以上、好ましくは98%以上、より好ましくは99%以上の相補性を言う。塩基配列の相補性は、blastnなどの公知のアルゴリズムによって決定することができる。本発明の2本鎖RNAを構成するアンチセンス鎖の塩基配列には、2本鎖RNAがRad51の発現を抑制する機能を有する限り、センス鎖に対して完全に相補的でない塩基配列が含まれる。たとえば、1－5塩基の変異は許容される。より具体的には、アンチセンス鎖における1塩基の変異は許容される。
- [0019] 本発明において、2本鎖RNAとは、塩基対結合によって相補鎖をともなった構造を有するRNAを言う。2本鎖RNAを構成するセンス鎖とアンチセンス鎖は、異なる分子であっても良いし、同一の分子であることもできる。同一の分子の場合には、互いに相補的な塩基配列が同一のRNA分子の上に配置される。通常、このような分子は、センス鎖とアンチセンス鎖の間の塩基対結合によって、ステムループ構造を構成する。すなわち本発明の2本鎖RNAには、2本鎖RNA構造を部分構造として含むステムループRNAが含まれる。
- [0020] 本発明の2本鎖RNAは、RNAポリメラーゼを利用して酵素的にRNAを合成することによって得ることができる。RNAの酵素的な合成方法は公知である。すなわち、RNAポリメラーゼの認識配列(プロモーター)の下流に目的とするRNAをコードするDNAを配置した鑄型DNAを合成する。2本鎖RNAのセンス鎖とアンチセンス鎖を異なる分子

として発現させる場合には、それぞれをコードするDNAがプロモーターの制御下に発現するようにデザインする。センス鎖とアンチセンス鎖を同一のベクターに配置することもできるし、異なるベクターに組み込んで同一の細胞に共形質転換することもできる。あるいは、同一分子として両者を発現させるには、目的とするステムループを構成するRNAをコードするDNAをベクターに組み込めばよい。ステムループ構造を与えるRNAにおいて、ループ部分を構成する塩基配列は任意である。一般には、5–20塩基程度の任意の塩基配列が利用される。たとえば、5'-ugugcuguc-3' (9塩基)などの塩基配列は、効果的なステムループ構造のsiRNAを与える。

鋳型DNAに、リボヌクレオチド基質の存在下、RNAポリメラーゼを作用させれば、鋳型DNAの塩基配列がRNAに転写される。RNAポリメラーゼは、細胞内、あるいは細胞外において、鋳型DNAに作用させることができる。RNAの転写には、T7RNAポリメラーゼなどを利用することができる。細胞外で転写されたセンス鎖とアンチセンス鎖は、ハイブリダイズさせることによって2本鎖RNAを構成する。

[0021] 細胞内で目的とするRNAを合成するためには、通常、目的とするRNAをコードするDNAを組み込んだ発現ベクターが細胞に導入される。siRNAを細胞内で発現させるためのベクターは公知である。たとえば、以下の報告においては、PolIII転写系を利用したsiRNAの発現ベクターとして、U6プロモーター、あるいはH1プロモーターなどを含む発現ベクターが利用されている。PolIII転写系によって転写されたRNAは、転写産物の3'末端に4つのuが付加される。

Brummelkamp et al.,: Science, 296: 550–553, 2002

Lee et al.,: Nature Biotechnol., 20: 500–505, 2002

Miyagishi et al.,: Nature Biotechnol., 20: 497–500, 2002

Paddison et al.,: Genes & Dev., 16: 948–958, 2002

Sui et al.,: Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 99: 5515–5520, 2002

Paul et al.,: Nature Biotechnol., 20: 505–508, 2002

Yu et al.,: Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 99: 6047–6052, 2002

Tuschl et al.,: Nature Biotechnol., 20: 446–448, 2002

McManus et al.,: Nature Rev. Genet., 3: 737–747, 2002

Dykxhoorn et al.,: Nature Rev. Mol. Cell Biol., 77: 7174–7181, 2003

[0022] PolIII転写系を利用したsiRNA発現用ベクターとして、以下の市販のベクター(宝バ
イオ製)を利用することもできる。U6プロモーターを利用したsiRNA発現ベクター:

pBAsi-hU6 DNA: human U6 promoter (Accession X07425)

pBAsi-mU6 DNA: mouse U6 promoter (Accession X06980)

H1プロモーターを利用したsiRNA発現ベクター:

pBAsi-hH1 DNA: human H1 promoter (Accession S68670)

[0023] 更に、次のようなウイルスベクターにsiRNAコンストラクトを導入し、長期にわたって
細胞中でsiRNAを発現させる試みも知られている。これらのウイルスベクターも、本發
明の2本鎖RNAを発現させるためのベクターとして利用することができる。

アデノウイルス(Zender et al.,: Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 100: 7797–7802, 2003;
Xia. et al., Nature Biotechnol., 20: 1006–1010, 2002)

レンチウイルス(Qin et al.,: Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 100: 183–188, 2003)

レトロウイルス(Barton et al.,: Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 99: 14943–14945, 2002)

アデノ随伴ウイルス(Nature Med., 9: 1539–1544, 2003)

その他、RNAを化学的に合成することもできる。RNAを化学的に合成する方法は公
知である。

[0024] 本発明の2本鎖RNAはRNAi効果によって、Rad51遺伝子を発現する細胞において
、その発現を抑制する。すなわち本発明の2本鎖RNAは、Rad51の発現を制御する
siRNAとして有用である。すなわち本発明は、配列番号:1を含むセンス鎖とその相補
鎖(アンチセンス鎖)とで構成される2本鎖RNAであって、センス鎖の長さが100塩基
以下である2本鎖RNA、またはそれを発現するベクターを含有する、ヒトRad51遺伝子
の発現抑制剤を提供する。あるいは本発明は、配列番号:1を含むセンス鎖とその相
補鎖とで構成される2本鎖RNAであって、センス鎖の長さが100塩基以下である2本
鎖RNA、またはそれを発現するベクターを投与する工程を含む、Rad51の発現抑制
方法に関する。

[0025] がん細胞におけるRad51の発現抑制が、がん細胞の放射線感受性を増強すること
がアンチセンスヌクレオチドを用いた実験で明らかにされている。本発明の2本鎖

RNAは、アンチセンスヌクレオチドよりも強力にRad51の発現を抑制する。したがって本発明の2本鎖RNAは、Rad51の発現抑制を通じて、細胞増殖性疾患の治療に利用することができる。すなわち本発明は、配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNA、またはそれを発現することができるベクターを有効成分として含有する医薬組成物に関する。

- [0026] 更に本発明者は、本発明の2本鎖RNAが、化学療法剤の治療効果を増強することを確認した。すなわち本発明は、配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNA、またはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤の両方を有効成分として含有する医薬組成物を提供する。
- [0027] さらに本発明の医薬組成物は、配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤のそれぞれを有効成分として含有する別々の医薬組成物の組み合わせ物としても提供される。本発明の医薬組成物は、特に細胞増殖性疾患の治療に有用である。本発明における細胞増殖性疾患には、たとえばがんが含まれる。
- [0028] 一方、本発明において、化学療法剤は、制がん剤 (carcinostatic agent)、抗がん剤 (anticancer agent)、および抗腫瘍剤 (antitumor agent, or antineoplastic agent) を含む。本発明における望ましい化学療法剤は、核酸合成阻害作用、および核酸障害作用のいずれか、または両方を有する化学療法剤である。本発明において、核酸合成阻害作用とは、DNAあるいはRNAの合成を阻害することを言う。核酸障害作用には、核酸の修飾、あるいは切断などの作用が含まれる。具体的には、たとえば以下の化学療法剤を好ましい化学療法剤として示すことができる。以下に示す化学療法剤の中で、ブレオマイシンとシスプラチンは、2本鎖RNAとの組み合わせによって、特にがん細胞に対する障害作用に優れる組成物とすることができます。すなわち、ブレオマイシンまたはシスプラチンは、本発明における化学療法剤として好ましい。
- [0029] ブレオマイシン類 (Bleomycins):

ブレオマイシン類は、*Streptomyces verticillus*から得られた抗生物質群である。構造的には、水溶性塩基性の糖ペプチド化合物である。ブレオマイシンA2、ブレオマイシンB2、並びにペプロマイシンなどが制がん剤として実用化されている。DNA分子の

切断作用、並びにATP依存性DNAリガーゼの阻害作用を有する。扁平上皮がんの治療などに用いられている。ブレオマイシン類の薬学的に許容される塩としては、塩酸ブレオマイシン、硫酸ブレオマイシン、および硫酸ペロマイシンなどを示すことができる。

[0030] アントラキノン系制がん剤:

Streptomyces属の産物で、特に急性白血病に対して治療効果を持つものが多い。更にダウノシルビシンの構造を化学的に修飾して得られたドキソルビシンが合成され、固形腫瘍にも強い薬理活性を持つことがわかった。アントラキノン系制がん剤の薬理作用には、多くのメカニズムが関与することが明らかにされている。具体的には、DNA内への挿入、トポイソメラーゼIIとの相互作用、フリーラジカルの産生、あるいは細胞膜への作用などが報告されている。ミトキサントロンは、骨髄性白血病や乳がんの治療に用いられる。イダルビシンは経口投与が可能である。

塩酸ミトキサントロン (mitoxantrone)

塩酸アクラルビシン (aciarubicin)

塩酸イダルビシン (idarubicin)

[0031] マイトマイシン類 (mitomycins):

Streptomyces caespitosusから単離された抗生物質、およびその誘導体である。分子構造中に、キノン、ウレタン、アジリジンという3つの制がん作用を有する構造を持つ。DNAのアルキル化によってDNAの側鎖に結合し合成を阻害する。作用スペクトルが広く、多様ながんに対する有効性が知られている。

[0032] アクチノマイシン類 (actinomysins):

Streptomyces属の放線菌から単離された複数の化合物、並びにその誘導体が知られている。たとえば、Streomyces paraullusから単離されたアクチノマイシンDは、橙黄色発色団とペプチドが結合した構造を有する巨大分子である。DNAの二重らせん構造のグアニンとアクチノマイシンDが結合し、転写を阻害する。ウイルスムス腫瘍やホジキン病等の治療に用いられる。

[0033] カンプトテシン類:

クロタキカズラ科クサミズキ (*Nothapodytes foetida*)、ヌマミズキ科カンレンボク

(*Camptotheca acuminata*) などから抽出された植物アルカロイド、並びにその類縁化合物である。分子構造に、キノリン骨格を有する。イリノテカン (トポテシン)、ノギテカン、エキサテカンは、植物カンプトテシンの誘導体である。

[0034] シスプラチン類 (*cisplatin*):

シスプラチンは、構造中に白金を含む錯体化合物で、がんの成長を抑制する働きがある。シスプラチン類に含まれる制がん剤として、カルボプラチニン、およびネダプラチニンなどが知られている。いずれの化合物も、DNAのグアニンと結合することによって制がん作用をもたらすと考えられている。シスプラチニン、パラプラチニン (Paraplatin)、およびブリプラチニン (Briplatin) などが知られている。

[0035] ストレプトゾトシン:

メチルニトロソウレアとして膵島細胞に直接の毒性はあるものの、臨床的に抗がん剤として有用であることが確認された。ストレプトゾトシンは、膵のインスリノーマや消化管内分泌腫瘍の治療手段の一つとなりうる。

[0036] 5-フルオロウラシル(5-FU)およびその誘導体:

ピリミジン代謝拮抗物質 (antipyrimidines) に分類される制がん剤には、以下のような化合物が知られている。これらの化合物はDNA合成においてピリミジンと拮抗し、DNAポリメラーゼを阻害する。各種の固形がんや白血病に対する有効性が確認されている。

5-フルオロウラシル (5-FU)

5-フルオロデオキシウリジン (FUDR)

テガフル

シタラビン

アンシタビン

アザウリジン

[0037] ピラルビシン:

心毒性の少ない新しいアンスラサイクリン抗生物質を微生物(放線菌)の培養液中から探し、1975年にアクラルビシン (aclarubicin) (アクラシノマイシンA) が発見された。さらにアドリアマイシン誘導体の合成研究から得られた心毒性の弱いピラルビ

シン(pirarubicin)は、現在有用ながん化学療法剤として使用されている。

- [0038] 本発明者らの知見によれば、化学療法剤であるブレオマイシンあるいはシスプラチ
ンの抗がん作用が、Rad51の発現を抑制することによって増強された。言い換えれば
、Rad51インヒビターは、ブレオマイシンあるいはシスプラチソの抗がん作用を増強す
る。すなわち本発明は、ブレオマイシンまたはその薬学的に許容される塩、若しくは
シスプラチソまたはその薬学的に許容される塩と、Rad51インヒビターを含む、医薬組
成物を提供する。あるいは本発明は、ブレオマイシンまたはその薬学的に許容される
塩、若しくはシスプラチソまたはその薬学的に許容される塩と、Rad51インヒビターの、
細胞増殖性疾患の治療のための医薬組成物の製造における使用に関する。また本
発明は、ブレオマイシンまたはその薬学的に許容される塩、若しくはシスプラチソまたは
その薬学的に許容される塩と、Rad51インヒビターとを投与する工程を含む、細胞
増殖性疾患の治疗方法を提供する。本発明における好ましい細胞増殖性疾患は、
がんである。
- [0039] 本発明において、Rad51インヒビターとは、Rad51の発現、および活性のいずれか、
または両方を抑制することができる任意の化合物を含む。好ましいRad51インヒビター
は、siRNAである。たとえば配列番号:1に示す塩基配列をセンス鎖に含む2本鎖
RNAは、Rad51の発現を強力に抑制する。また、Rad51の発現を抑制するアンチセン
ス核酸が公知である(US 2003/0229004)。
- [0040] 本発明の2本鎖RNA、あるいは2本鎖RNAを発現することができるDNAは、がん細
胞に導入することにより、がんの治療に利用することができる。がん細胞への導入に
は、任意の方法を利用することができる。たとえば、各種のトランスフェクション用の試
薬が公知である。あるいはリポソームやウイルスエンベロープベクターに封入し、がん
細胞に導入することもできる。
また2本鎖RNAと化学療法剤とを含む本発明の医薬組成物も同様に、任意の方法
によってがん細胞に導入し、その治療に利用することができる。たとえば、リポソーム
やウイルスエンベロープベクターは、2本鎖RNAと化学療法剤とを含む本発明の医薬
組成物をがん細胞に導入するためのキャリアとして好ましい。
- [0041] たとえば、リポソームをウイルス外膜と共に利用するin vivo遺伝子導入方法、あるい

はHVJ-リポソーム媒介遺伝子導入法が開発されている (Science, 243: 375–378 (1989); Anal. NY Acad. Sci. 772: 126–139 (1995))。既に、該方法を用いて肝臓、腎臓、血管壁、心臓及び脳を含む種々の組織へのin vivoでの遺伝子導入が成功している (Gene Therapy 7: 417–427 (2000); Science 243: 375–378 (1989); Biochem. Biophys. Res. Commun. 186: 129–134 (1992); Proc. Natl. Acad. Sci. USA 90: 8474–8478 (1993); Am. J. Physiol. 271 (Regulatory Integrative Comp. Physiol. 40): R1212–R1220 (1996))。

[0042] ところが、HVJ-リポソーム法においては、ウイルス及びリポソームという異なるビヒクルが必須であり、準備が複雑である。また、HVJをリポソームと融合することによってウイルス粒子よりも平均直径が1.3倍大きくなる。その結果、細胞との融合活性が野生型ウイルスの10%以下に減少すること、及び遺伝子導入が不可能な組織、または導入効率の悪い組織が存在することが知られている。そこで、より安全で高効率な遺伝子治療を可能にする方法として、ウイルスエンベロープベクターを用いた遺伝子導入法が開発されている (特開2001-286282)。この方法では、ウイルス蛋白質を複製しない不活性化ウイルスをウイルスエンベロープとし、その中へ遺伝子などを封入することにより、培養細胞、生体組織等への遺伝子導入ベクターとして用いることができる。このようなウイルスエンベロープベクターを使用することにより、肝臓、骨格筋、子宮、脳、眼部、頸動脈、皮膚、血管、肺、心臓、腎臓、脾臓、がん組織、神経、Bリンパ球、呼吸器官の組織、浮遊細胞等に安全、且つ高効率に遺伝子を導入できることが知られている。

[0043] ウイルスエンベロープは、精製されたウイルスに目的とする医薬組成物を界面活性剤存在下で混和するか、または、ウイルスと医薬組成物との混合液を凍結融解することにより調製することができる (特開2001-286282)。ここで医薬組成物とは、2本鎖RNA、2本鎖RNAを発現するDNA、あるいは2本鎖RNAと化学療法剤を含む医薬組成物を用いることができる。

[0044] ウイルス-エンベロープ法において用いることができるウイルスとしては、例えは、レトロウイルス、トガウイルス、コロナウイルス、フラビウイルス、パラミクソウイルス、オルトミクソウイルス、ブニヤウイルス、ラブドウイルス、ポックスウイルス、ヘルペスウイルス、バ

キュロウイルス、ヘパドナウイルス等の科に属するウイルスを挙げることができる。より具体的には、センダイウイルス(HVJ)、レトロウイルス、アデノウイルス、アデノ随伴ウイルス、ヘルペスウイルス、ワクシニアウイルス、ポックスウイルスまたはインフルエンザウイルスを用いることができる。ウイルスとしては、野生型及び組換え型のいずれのウイルスを用いることができる。特にHVJとしては、Hasan M. K. ら(J. General Virol. 78: 2813–2820 (1997))、または、Yonemitsu Y. ら(Nature Biotech. 18: 970–973 (2000))等により報告されている組換え型のHVJを用いることもできる。

- [0045] 一般に、HVJ-リポソーム法及びHVJ-エンベロープ法において用いるHVJとしてはZ株(ATCCより入手可能)が好ましいが、基本的には他のHVJ株(例えばATCC VR-907やATCC VR-105等)も用いることができる。また、ウイルスエンベロープの調製する際に、精製されたウイルスをUV照射等により不活性化した後に、所望の発現ベクターを混和しても良い。ウイルスと医薬組成物を混和する際に用いることができる界面活性剤としては、例えば、オクチグルコシド、Triton X-100、CHAPS、NP-40等が挙げられる。このようにして調製されたウイルスエンベロープベクターは、注射等により治療または予防の標的となる組織に導入することができる。また、-20°Cで凍結することにより、少なくとも2~3ヶ月保存することも可能である。
- [0046] 本発明の医薬組成物を含むウイルスエンベロープベクターの患者への導入法としては、遺伝子治療剤を直接体内に導入するin vivo法及びヒトからある種の細胞を取り出して体外で遺伝子治療剤を該細胞に導入し、その細胞を体内に戻すex vivo法が挙げられる(日経サイエンス、1994年4月号: 20–45頁; 月刊薬事 36(1): 23–48 (1994); 実験医学増刊 12 (15): (1994); 日本遺伝学治療学会編 遺伝子治療開発研究ハンドブック、エヌ・ティー・エス(1999))。本発明では、in vivo法が特に好ましい。
- [0047] 製剤形態としては、上記の各投与形態に合った種々の公知の製剤形態(例えば液剤等)をとり得る。例えば有効成分である2本鎖RNA、あるいは2本鎖RNAと化学療法剤を含有する注射剤として製剤する場合、このような注射剤は定法により調製することができ、例えば適切な溶剤(PBS等の緩衝液、生理食塩水、滅菌水等)に溶解した後、必要に応じてフィルター等で濾過滅菌し、次いで無菌的な容器に充填することにより調製することができる。必要に応じて、注射剤には慣用の担体等を加えても良い

。また、HVJ-リポソーム等のリポソーム製剤としては、懸濁剤、凍結剤、遠心分離濃縮凍結剤等の形態が挙げられる。

- [0048] 本発明の医薬組成物は治療目的のがんの、症状等に応じた適当な投与方法及び投与部位が選択される。特に、非経口的な投与が好ましい。本発明における2本鎖RNAの投与量の範囲は、通常、0.5～100mmol/腫瘍、たとえば1～50mmol/腫瘍を例示することができる。また2本鎖RNAを発現するDNAとして投与される場合には、通常、1～1000μg/腫瘍、たとえば10～500μg/腫瘍を例示することができる。更に、化学療法剤を組み合わせる場合には、各化学療法剤において設定されている標準的な投与スケジュールを適用することができる。たとえば化学療法剤としてブレオマイシンを組み合わせる場合、成人1人(体重60kg)あたり、通常、0.1～100mg(力価)/day、たとえば1～50mg(力価)/day、好ましくは5～30mg(力価)/dayを例示することができる。あるいはシスプラチニンを組み合わせる場合、成人1人(体重60kg)あたり、通常1～1000mg/m²(体表面積)、たとえば5～500mg/m²(体表面積)、好ましくは10～100mg/m²(体表面積)を例示することができる。
- [0049] 更に本発明における投与スケジュールとしては、たとえば以下のようなスケジュールを示すことができる。すなわち、化学療法剤としてブレオマイシンを用いる場合には、15～30mg(静脈注射、筋肉内注射、あるいは皮下注射の場合)、あるいは5～15mg(動脈注射)を、1週間2回を原則として、1日1回投与することができる。投与回数は、経過を観察しながら、1週間1回に調節することもできる。
- [0050] またシスプラチニンを化学療法剤として用いる場合には、15～20 mg/m²(体表面積)を5日投与(1日1回)し、2週間の休養の後、同じスケジュールの投与を繰り返す(反復投与)ことができる。反復投与のスケジュールは、適宜調節することができる。たとえば、70～90 mg/m²(体表面積)を5日投与(1日1回)し、3週間の休養の後、同じスケジュールの投与を繰り返す(反復投与)こともできる。
- なお本明細書において引用された全ての先行技術文献は、参照として本明細書に組み入れられる。
- 実施例**
- [0051] 以下、本発明を実施例に基づきより具体的に説明する。

[実施例1] Rad51 siRNAの作成と細胞への導入

ヒトのRad51 (Accession number NM_002875) の siRNAとして、米国Dharmacon社に製造を依頼し、以下に示した5種類の塩基配列からなるセンス鎖と、その相補配列からなるアンチセンス鎖で構成されたsiRNAを合成した(図1)。

ターゲット 321: GAGCUUGACAAACUACUUC (配列番号:1)

ターゲット 462: GGAAAGGCCAUGUACAUUG (配列番号:2)

ターゲット 989: UGCAGAUGGAGUGGGAGAU (配列番号:3)

ターゲット 89 : GUGUGGCAUAAAUGCCAAC (配列番号:4)

ターゲット 828: GCGAUGUUUGCUGCUGAUC (配列番号:5)

これら5種類のsiRNAを、HVJエンベロープベクターを用いてHeLa細胞(ATCC. CCL-2; Gey, G. O. et al., Cancer Res., 12: 264-265, 1952)に導入した。

[0052] Rad51 siRNAは以下の条件で導入した。siRNAのトランスフェクションの前日に、 1×10^5 のHeLa細胞を6ウェルプレートに撒いた。

公知の方法 (Kaneda Y. et al., Mol Ther. 2002 Aug;6(2):219-26.) にしたがって、不活化HVJを調製した。6000 HAU (hemagglutinating units) の不活化HVJを含むサンプルチューブに、 $60 \mu l$ の $40 \mu M$ Rad51 siRNA (配列番号:1~5のいずれかを含む) または対照のスクランブル配列 (5' -gcgcgcuuuguaggauucg- 3') からなるsiRNA (配列番号:6) を加え、さらに $6 \mu l$ の2% Triton X-100 を加えた。10000 x gで10分間遠心した後、上清を除き、沈殿を $180 \mu l$ のPBS (phosphate buffered saline) に懸濁した。 $15 \mu l$ の10 mg/ml 硫酸プロタミンを加え (終濃度 $50 \mu g/ml$)、3 mlのDMEM (Dulbecco's Modified Eagle Medium) を加えた。このHVJエンベロープベクターおよび各siRNAを含む溶液 $500 \mu l$ (1000 HAU) を、各ウェル中のHeLa細胞に加え、 $37^\circ C$ で30分間インキュベートした。その後、HVJエンベロープベクター溶液を除去し、 $37^\circ C$ 、 $5\% CO_2$ で細胞を培養した。

[0053] 各siRNA導入1日後のRad51 mRNAをノーザンプロットで調べた結果、Rad51発現に対して抑制効果のあったsiRNAは1種類で、その配列はコドン321からの19塩基(+2塩基のオーバーハング)を持つ GAGCUUGACAAACUACUUC (配列番号:1) であった(図1;以後「321」とも称す)。その他の4候補 (配列番号:2~5) は全く抑制効果

がなかった。そこで、抑制効果のあったRad51 siRNA (321、配列番号:1) を用いて以降の実験を行った。

[0054] [実施例2] siRNAによるRad51蛋白の発現抑制

効果のあった1種類(321、配列番号:1)のRad51 siRNAを、実施例1のようにしてHeLa細胞に導入し、Rad51蛋白の発現抑制効果を経日的に調べた。対照として、スクランブル配列からなるsiRNA (配列番号:6)を同様にHeLa細胞に導入し、Rad51蛋白の発現を経日的に調べた。Rad51 siRNA (321) は、4日間は完全にRad51蛋白の発現を検出感度以下に抑制した。5日目においてもその発現量は導入前の10%以下であった(図2)。

[0055] [実施例3] siRNAまたはアンチセンス核酸によるRad51蛋白の発現抑制の比較

Rad51のアンチセンスオリゴ核酸として、文献(Ohnishi, T., Taki, T., Hiraga, S., Arita, N., Morita, T. In vitro and in vivo potentiation of radiosensitivity of malignant gliomas by antisense inhibition of the Rad51 gene. Biochem. Biophys. Res. Comm. 1998; 245: 319–324.)に基づき、15 bpからなるRad51 AS#1(5' ggcttcactaattcc 3')及びRad51 AS#2(5' cgtatgacagatctg 3')を作成した。Rad51 AS#1は、Rad51遺伝子の368～382番目の塩基に相当し、Rad51 AS#2は、Rad51遺伝子の578～592番目の塩基に相当する。

[0056] Rad51 siRNA (321)、Rad51 AS#1、またはRad51 AS#2のそれぞれ約80 pmoleを、実施例1のようにして10万個のHeLa細胞に導入した。対照として、スクランブル配列(配列番号:6)からなるsiRNA (SC siRNA)、ウイルスベクターのみ(Empty HVJ-E)、またはRad51のアンチセンスオリゴ核酸のスクランブル配列(SC AS、5' tcgcgatcacctt 3')を同様にHeLa細胞に導入した。内部標準として、G3PDH(グリセルアルデヒド3-リン酸デヒドロゲナーゼ、glyceraldehyde – 3 – phosphate dehydrogenase)を用いた。

[0057] Rad51蛋白の発現抑制効果をノーザンプロットで調べたところ、Rad51 siRNA (321)を導入したHeLa細胞においては、1日後にRad51のmRNAはノーザンプロットで完全に同定できない程度まで抑制された(図3A)。これに対し、Rad51のアンチセンスオリゴ核酸(Rad51 AS#1またはRad51 AS#2)は効果が低く(図3B)、アンチセンスオリゴ核酸に対するsiRNAの優位性が示された。

[0058] [実施例4] ブレオマイシンとの併用によるRad51 siRNAの抗がん作用の増強

Rad51 siRNA (321) または対照のスクランブルsiRNA (配列番号:6) を、HVJエンベロープベクターによりそれぞれ実施例1のようにしてHeLa細胞に導入し、2日後に抗がん剤のブレオマイシン (BLM、 $1 \mu\text{g}/\text{ml}$) で18時間処理した(図4A)。ブレオマイシン (BLM) で処理した場合、ブレオマイシン処理しなかったものと比較して、その抗がん剤効果は約2倍増強された(図4B)。

[0059] [実施例5] シスプラチニとの併用によるRad51 siRNAの抗がん作用の増強

また、本発明者らは、Rad51はシスプラチニ (cis-diamminedichloroplatinum (II); CDDP) による二重鎖切断の修復にも関与していることを見出した。本発明者らは、CDDPをがん細胞に添加するとRad51が約2倍増強されること、およびRad51遺伝子を強発現させるとCDDPに耐性になることを突き止めた。したがって、Rad51の発現を阻害することは、細胞のCDDPへの耐性を減少させると考えられる。そこで、Rad51が強く発現しているがん細胞であるHeLaにRad51 siRNA (321) または対照のスクランブル配列(配列番号:6)を導入し、経日的に細胞相対数の変化を調べた。導入2日後にシスプラチニ(CDDP)で3時間処理し、9日後にコロニー数を計測した(図5A)。Rad51 siRNA (321)を導入した細胞は、対照と比較して、細胞増殖能がやや低下した(図5B)。しかし図5Cに示すように、Rad51のsiRNA (321)を導入し、2日後に図示した濃度のシスプラチニ(CDDP)で3時間処理すると、対照のスクランブル配列と比較して、Rad51 siRNA (321)導入群ではコロニー形成能が著明に低下し、がん細胞のコロニー形成能が有意に抑制されることが示された。

[0060] [実施例6] 各種ヒトがん細胞におけるRad51 siRNAとシスプラチニとの併用による抗がん作用の増強

Rad51 siRNA (321) 或いはスクランブル siRNA(配列番号:6)をHVJエンベロープベクターを用いて各種ヒトがん細胞、PANC-1 (pancreatic cancer), AsPC-1 (pancreatic cancer), A549 (lung cancer), DU145 (prostate cancer), MCF7 (mammary carcinoma), HeLa S-3 (cervical cancer)に導入しシスプラチニ(CDDP)を同時投与して、2日後に細胞増殖アッセイを行った。内部標準として、Ku70及び β アクチンを用いた。各細胞の蛋白レベルを調べた結果、各種ヒトがん細胞のKu70、 β アクチンは

ほぼ同レベルであったが、Rad51 蛋白レベルは様々であった(図6A)。シスプラチン(CDDP、 $0.1 \mu\text{g}/\text{ml}$)を同時投与すると、スクランブルsiRNAを導入した場合には80%以上の細胞が生存したのに対し、Rad51 siRNA(321)を導入した場合はどのがん細胞においても細胞の生存率が減少し、CDDP感受性が30%以上増加したことが示された(図6B)。したがって、Rad51 siRNA(321)は多くのヒトがん細胞においても同様のシスプラチン感受性増強効果を発揮することが示された。

[0061] [実施例7]正常ヒト細胞とがん細胞とのシスプラチン感受性の比較

Rad51 siRNA (321)をHVJエンベロープベクターを用いて正常ヒト細胞またはがん細胞に導入し、CDDP感受性の相違を調べた。正常ヒト細胞として用いたヒト正常2倍体繊維芽細胞(NHDF、Normal human diploid fibroblast)にRad51 siRNA (321)を導入した場合、シスプラチンの濃度の上昇に伴う感受性の変化は観察されず、約90%の細胞が生存していた。一方、がん細胞として用いたHeLa細胞では、Rad51 siRNA (321)の導入後、シスプラチン濃度の上昇に伴って生存細胞が減少し、CDDPの濃度に依存して感受性が増強されることが示された(図7A)。そこで、Rad51 siRNA (321)導入後、NHDFとHeLa細胞において $0.1 \mu\text{g}/\text{ml}$ CDDPの有無によるアポトーシスの率を、アネキシンV(AnnexinV)陽性細胞の割合で測定した(図7B)。CDDP非存在下では、アポトーシス細胞の率はHeLa 細胞 ($4.0 \pm 1.1\%$) とNHDF ($3.2 \pm 0.5\%$) とで変化がなかった。これに対しCDDP存在下では、アポトーシス率はHeLa細胞で15.0%に増加したのに対し、NHDFではほとんど増加しなかった(4.9%)。以上のデータより、Rad51 siRNA (321)によるCDDPの感受性増強はがん細胞に選択的に見られる現象であり、治療法としての安全性は高いことが示された。

[0062] [実施例8] Rad51 siRNAによるがん治療効果の増強

ヌードマウスにHeLa細胞を移植して腫瘍塊をつくりさせた。まずRad51 siRNA (321)を腫瘍塊に導入後、2日後に腹腔内にCDDP $200 \mu\text{g}$ を投与し、同時にsiRNA (321)を腫瘍塊内に再注入した。さらにその2日後にもRad51 siRNA (321)を腫瘍塊に注入した。Rad51 siRNA (321)注入のみでは腫瘍増殖抑制作用はかなり弱く、さらにスクランブルsiRNAおよびCDDPの併用ではその腫瘍の増殖は一部抑制されたのみであったが、Rad51 siRNA (321)とCDDPとの併用では腫瘍の増殖がほぼ完全に抑制され

、顕著な制がん作用が示された(図8)。なおRad51 siRNAをHVJエンベロープベクターで投与したとき、その腫瘍塊に対する導入効率は40–50%であった。

産業上の利用可能性

[0063] 本発明の2本鎖RNA、あるいはそれを含む組成物は、Rad51の発現制御に有用である。Rad51の発現制御により、がん細胞の増殖抑制、あるいはがん細胞そのものの障害が可能である。またRad51の発現抑制は、がん細胞の放射線に対する感受性の増強に有用である。更に、本発明の2本鎖RNAは化学療法剤との併用によって、強力な制がん作用を發揮することが明らかにされた。以上のように、本発明は、がんの治療に有用である。

請求の範囲

- [1] 配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAであって、センス鎖の長さが100塩基以下である2本鎖RNA。
- [2] 配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAであって、センス鎖の長さが100塩基以下である2本鎖RNAを発現するベクター。
- [3] 請求項1に記載の2本鎖RNA、または請求項2に記載のベクターを有効成分として含有する、Rad51遺伝子の発現抑制剤。
- [4] Rad51遺伝子がヒトRad51遺伝子である請求項3に記載のRad51遺伝子の発現抑制剤。
 -
- [5] 配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNA、またはそれを発現することができるベクターを有効成分として含有する医薬組成物。
- [6] 配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNA、またはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物。
- [7] がんまたは悪性腫瘍の治療用である請求項6に記載の医薬組成物。
- [8] 化学療法剤が、制がん剤(carcinostatic agent)、抗がん剤(anticancer agent)、および抗腫瘍剤(antitumor agentまたはantineoplastic agent)からなる群から選択される請求項6に記載の医薬組成物。
- [9] 化学療法剤が、核酸合成阻害作用、および核酸障害作用のいずれか、または両方を有する化学療法剤である請求項6に記載の医薬組成物。
- [10] 化学療法剤が、ブレオマイシン類、アントラキノン系制がん剤、マイトイシン類、アクチノマイシン類、カンプトテシン類、シスプラチン類、ストレプトゾトシン、5-フルオロウラシル(5-FU)およびその誘導体、ピラルビシン、およびそれらの薬理学的に許容される塩からなる群から選択されるいずれかの化合物の少なくとも1つである、請求項6に記載の医薬組成物。
- [11] ブレオマイシン類が、ブレオマイシン、およびペプロマイシンからなる群から選択されるいずれかの化合物である請求項10に記載の医薬組成物。
- [12] ブレオマイシン類の薬理学的に許容される塩が、塩酸ブレオマイシン、硫酸ブレオマ

イシン、および硫酸ペロマイシンからなる群から選択されるいづれかの化合物である、請求項10に記載の医薬組成物。

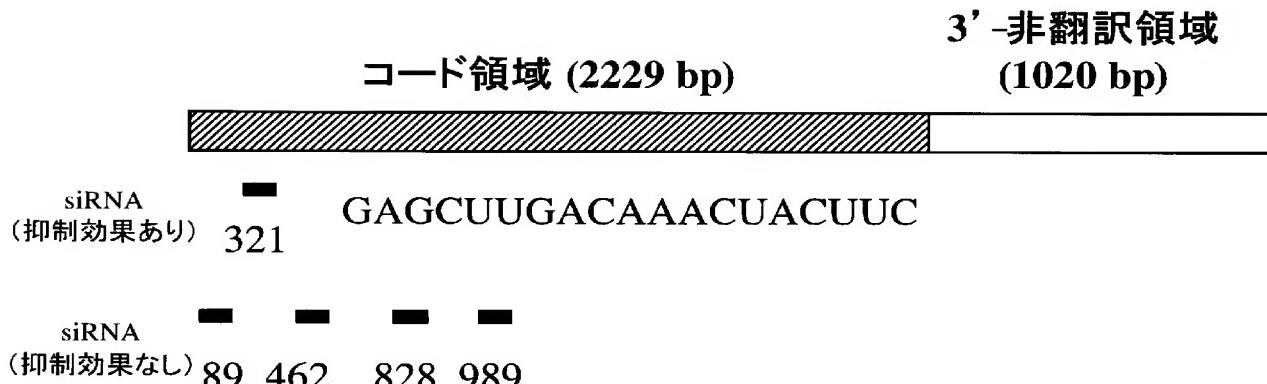
- [13] シスプラチン類が、シスプラチン、パラプラチン(Paraplatin)、およびブリプラチン(Briplatin)からなる群から選択されるいづれかの化合物である、請求項10に記載の医薬組成物。
- [14] 化学療法剤が、2本鎖RNAとともにウイルスエンベロープベクターに封入されていることを特徴とする、請求項6に記載の医薬組成物。
- [15] ウィルスエンベロープベクターが、レトロウイルス科、トガウイルス科、コロナウイルス科、フラビウイルス科、パラミクソウイルス科、オルトミクソウイルス科、ブニヤウイルス科、ラブドウイルス科、ポックスウイルス科、ヘルペスウイルス科、バキュロウイルス科、およびヘパドナウイルス科からなる群から選択される科に属するウイルスのエンベロープで構成されている、請求項14に記載の医薬組成物。
- [16] ウィルスエンベロープベクターが、センダイウイルス、レトロウイルス、アデノウイルス、アデノ随伴ウイルス、ヘルペスウイルス、ワクシニアウイルス、ポックスウイルスまたはインフルエンザウイルスからなる群から選択されたいづれかのウイルスのエンベロープで構成されている、請求項14に記載の医薬組成物。
- [17] (a)配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAを有効成分として含有する医薬組成物、及び(b)化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。
- [18] (a)配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAを発現することができるベクターを有効成分として含有する医薬組成物、及び(b)化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。
- [19] がんまたは悪性腫瘍の治療用である請求項17または18のいづれか一項に記載の組み合わせ物。
- [20] 化学療法剤が、制がん剤(carcinostatic agent)、抗がん剤(anticancer agent)、および抗腫瘍剤(antitumor agentまたはantineoplastic agent)からなる群から選択される請求項17～19のいづれか一項に記載の組み合わせ物。
- [21] 化学療法剤が、核酸合成阻害作用、および核酸障害作用のいづれか、または両方

を有する化学療法剤である請求項17～19のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

- [22] 化学療法剤が、ブレオマイシン類、アントラキノン系制がん剤、マイトマイシン類、アクチノマイシン類、カンプトテシン類、シスプラチン類、ストレプトゾトシン、5-フルオロウラシル(5-FU)およびその誘導体、ピラルビシン、およびそれらの薬理学的に許容される塩からなる群から選択されるいづれかの化合物の少なくとも1つである、請求項17～19のいずれか一項に記載の組み合わせ物。
- [23] ブレオマイシン類が、ブレオマイシン、およびペプロマイシンからなる群から選択されるいづれかの化合物である請求項22に記載の組み合わせ物。
- [24] ブレオマイシン類の薬理学的に許容される塩が、塩酸ブレオマイシン、硫酸ブレオマイシン、および硫酸ペプロマイシンからなる群から選択されるいづれかの化合物である、請求項22に記載の組み合わせ物。
- [25] シスプラチン類が、シスプラチン、パラプラチン(Paraplatin)、およびブリプラチン(Briplatin)からなる群から選択されるいづれかの化合物である、請求項22に記載の組み合わせ物。
- [26] 2本鎖RNAが、ウイルスエンベロープベクターに封入されていることを特徴とする、請求項17または18のいずれか一項に記載の組み合わせ物。
- [27] ウィルスエンベロープベクターが、レトロウイルス科、トガウイルス科、コロナウイルス科、フラビウイルス科、パラミクソウイルス科、オルトミクソウイルス科、ブニヤウイルス科、ラブドウイルス科、ポックスウイルス科、ヘルペスウイルス科、バキュロウイルス科、およびヘパドナウイルス科からなる群から選択される科に属するウイルスのエンベロープで構成されている、請求項26に記載の組み合わせ物。
- [28] ウィルスエンベロープベクターが、センダイウイルス、レトロウイルス、アデノウイルス、アデノ随伴ウイルス、ヘルペスウイルス、ワクシニアウイルス、ポックスウイルスまたはインフルエンザウイルスからなる群から選択されたいづれかのウイルスのエンベロープで構成されている、請求項26に記載の組み合わせ物。
- [29] 請求項1に記載の2本鎖RNA、または請求項2に記載のベクターを細胞に投与する工程を含む、Rad51の発現抑制方法。

- [30] 配列番号:1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成される2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を投与する工程を含む、がんまたは悪性腫瘍の治療方法。
- [31] 2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を投与する工程が、2本鎖RNAおよび化学療法剤が封入されたウイルスエンベロープベクターを投与する工程である、請求項30に記載の治療方法。
- [32] 2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクター、および化学療法剤を投与する工程が、2本鎖RNAまたはそれを発現することができるベクターを有効成分として含有する医薬組成物、及び化学療法剤を有効成分として含有する医薬組成物を別々に投与する工程である、請求項30に記載の治療方法。
- [33] がんまたは悪性腫瘍を治療するための医薬組成物の調製のための、請求項1に記載の2本鎖RNA、または請求項2に記載のベクターの使用。
- [34] 医薬組成物が化学療法剤を含む、請求項1に記載の2本鎖RNA、または請求項2に記載のベクターの使用。
- [35] ブレオマイシンまたはその薬学的に許容される塩、およびRad51インヒビターを含む、医薬組成物。
- [36] シスプラチニンまたはその薬学的に許容される塩、およびRad51インヒビターを含む、医薬組成物。
- [37] (a)ブレオマイシンまたはその薬学的に許容される塩を有効成分として含有する医薬組成物、および(b)Rad51インヒビターを有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。
- [38] (a)シスプラチニンまたはその薬学的に許容される塩有効成分として含有する医薬組成物、および(b)Rad51インヒビターを有効成分として含有する医薬組成物を含む、組み合わせ物。
- [39] がんまたは悪性腫瘍の治療用である請求項37または38のいずれか一項に記載の組み合わせ物。

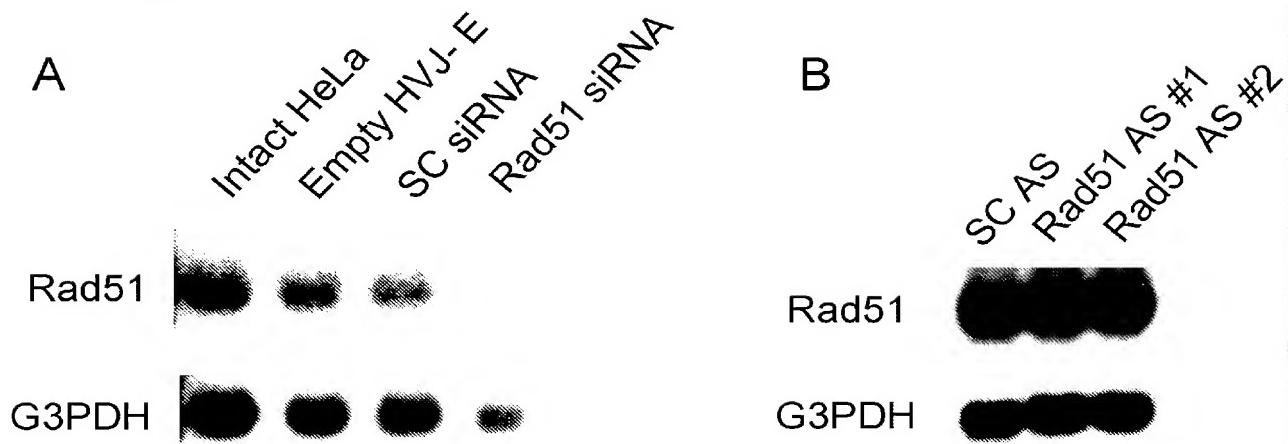
[図1]



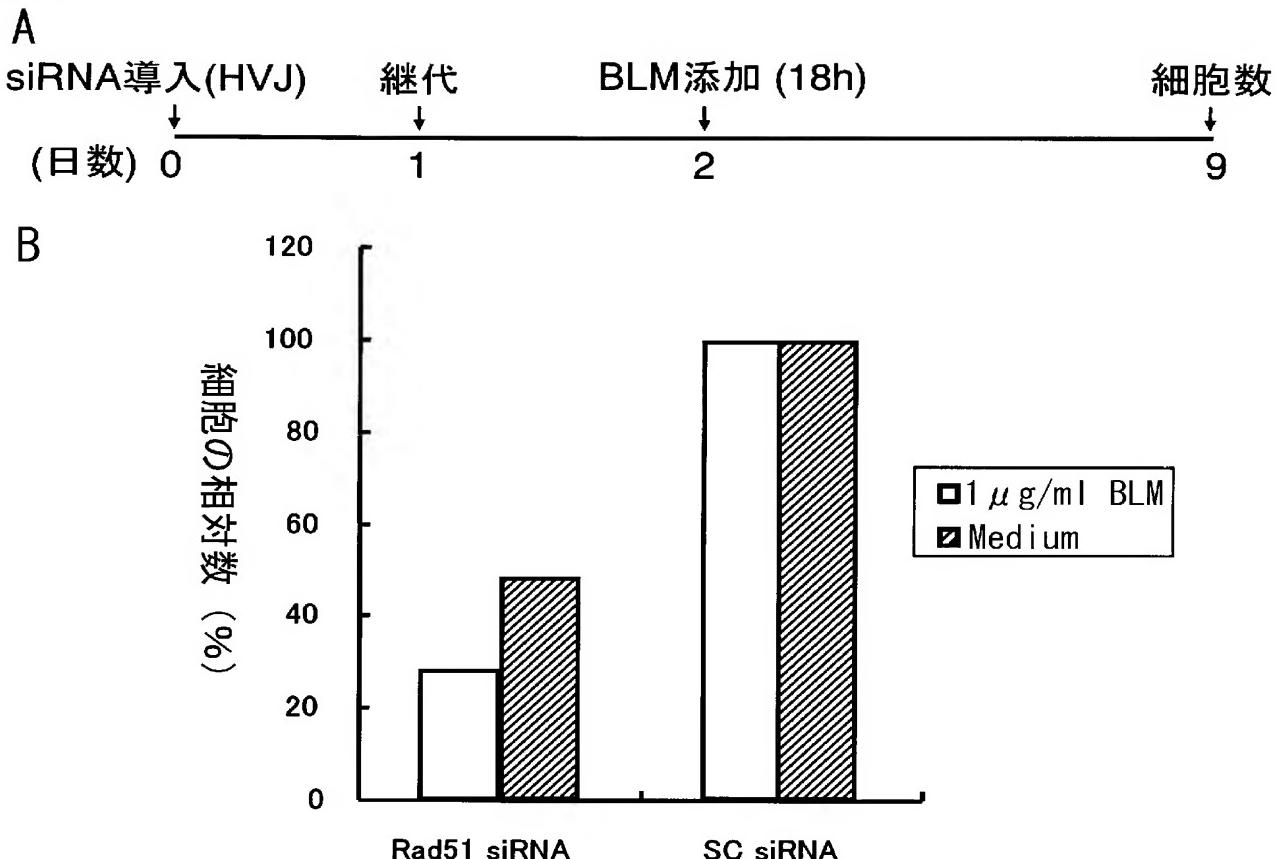
[図2]



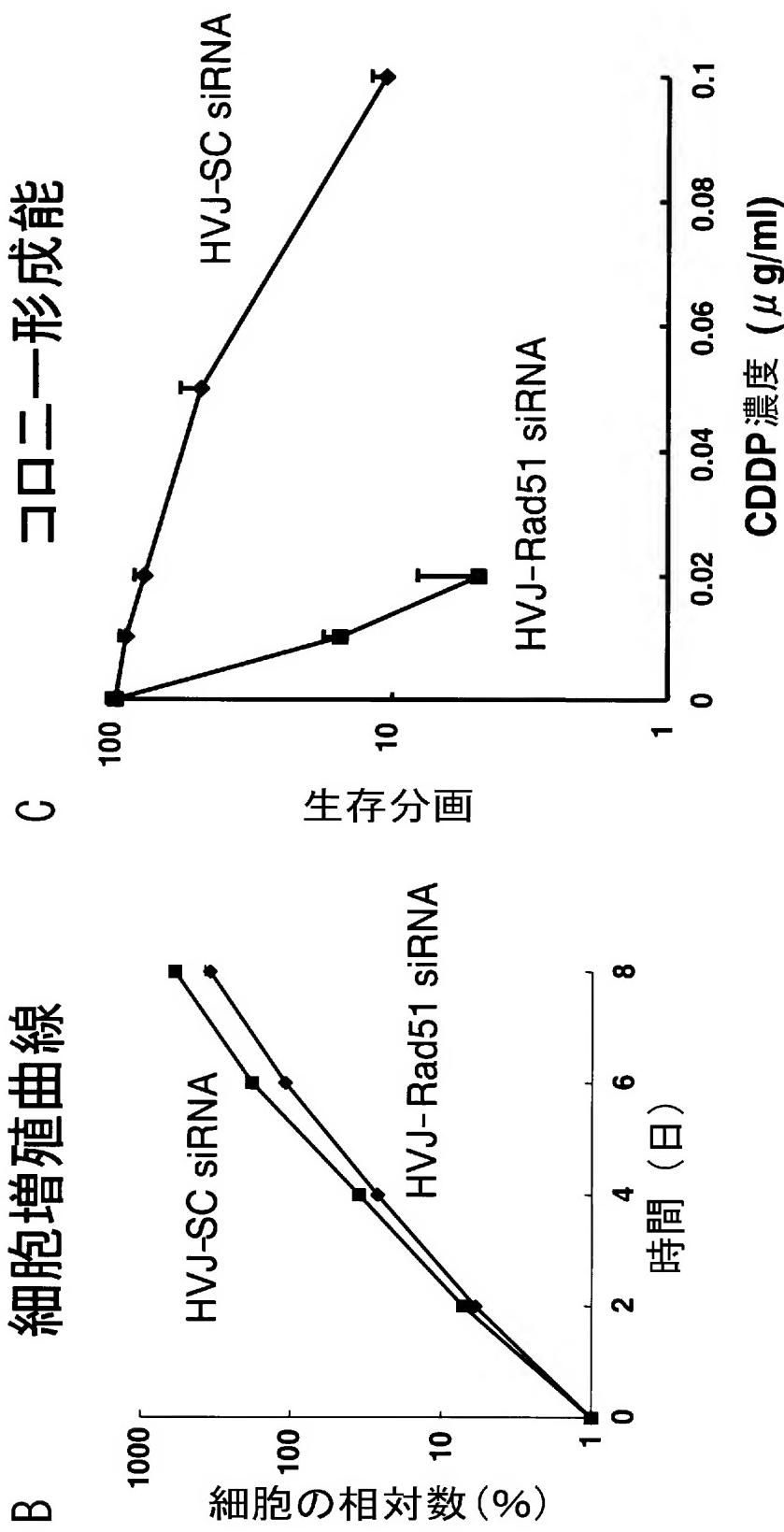
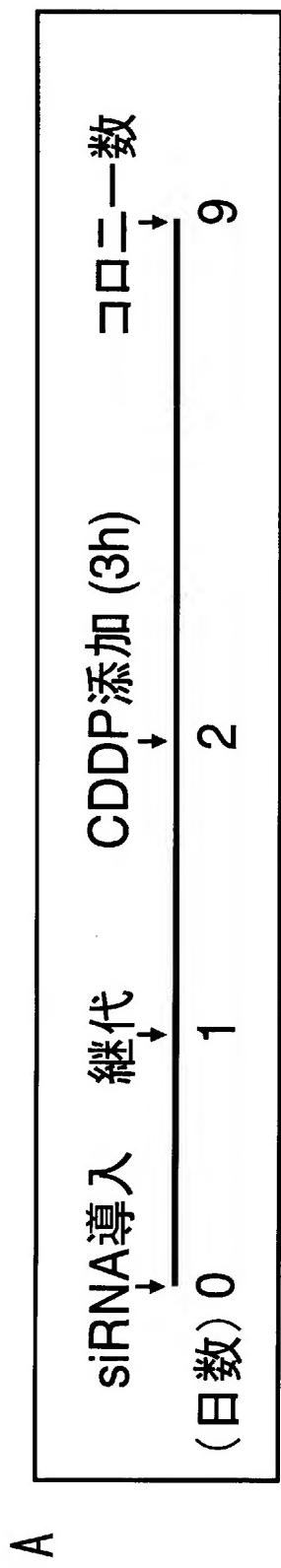
[図3]



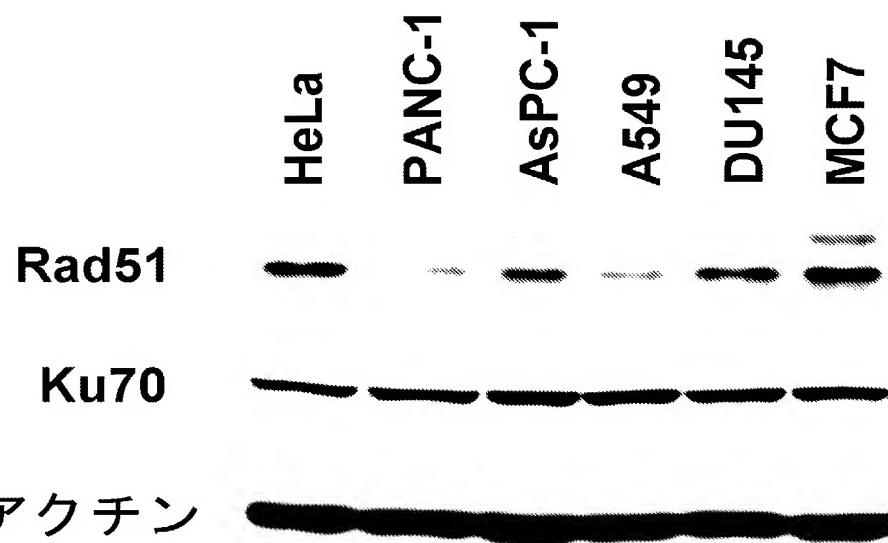
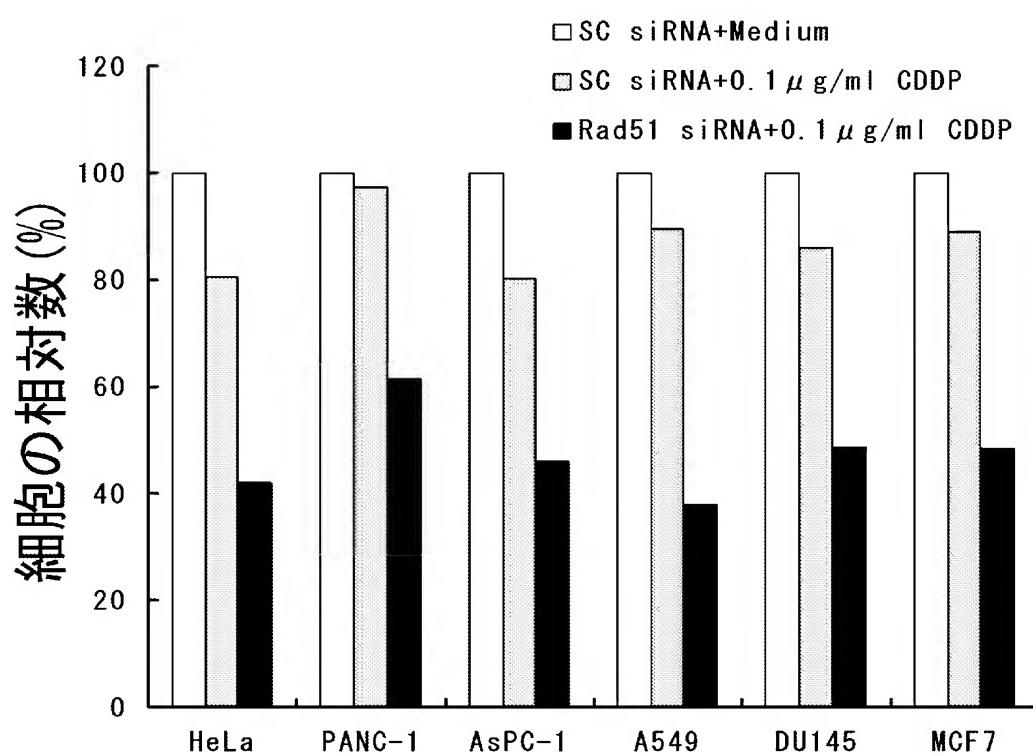
[図4]



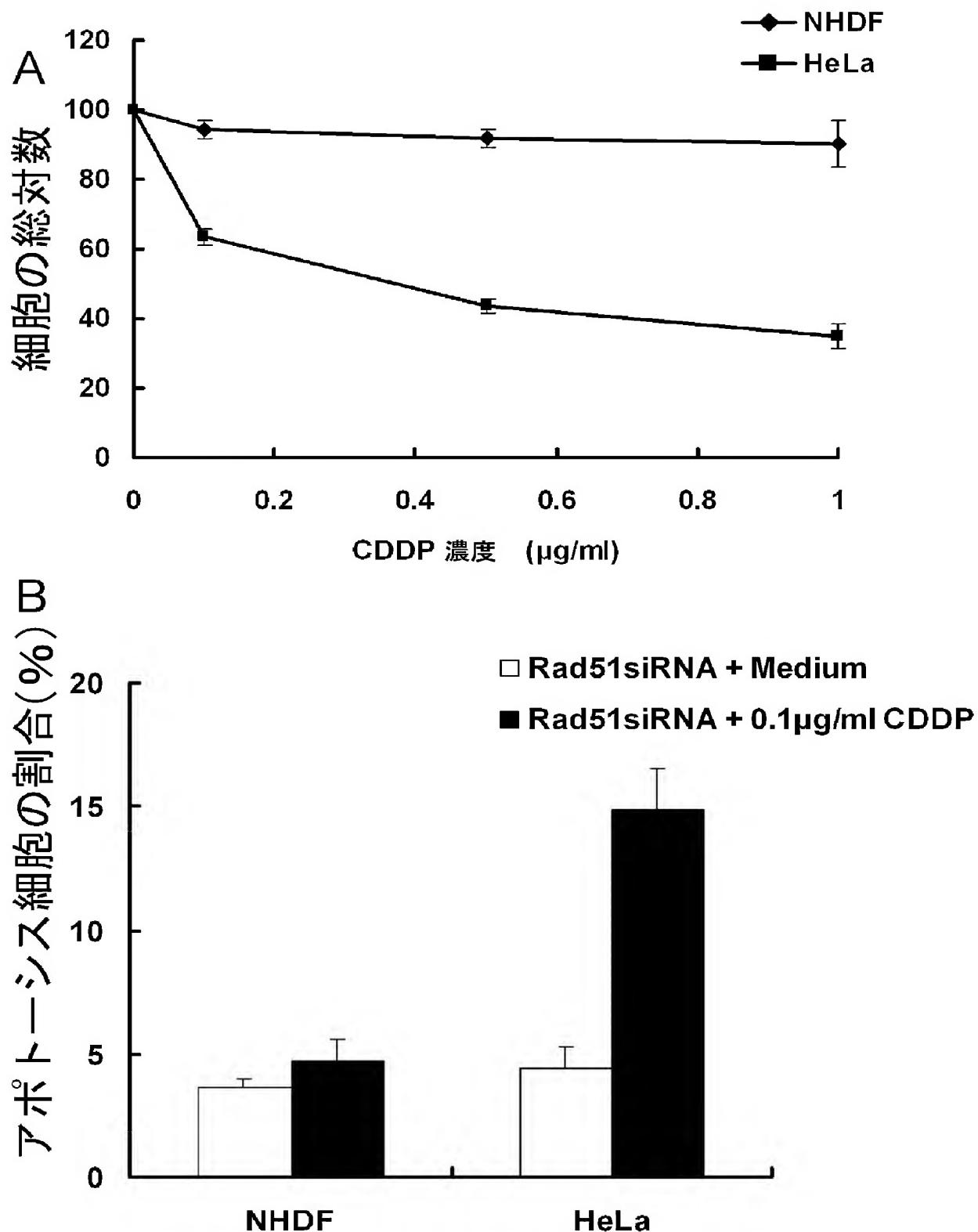
[図5]



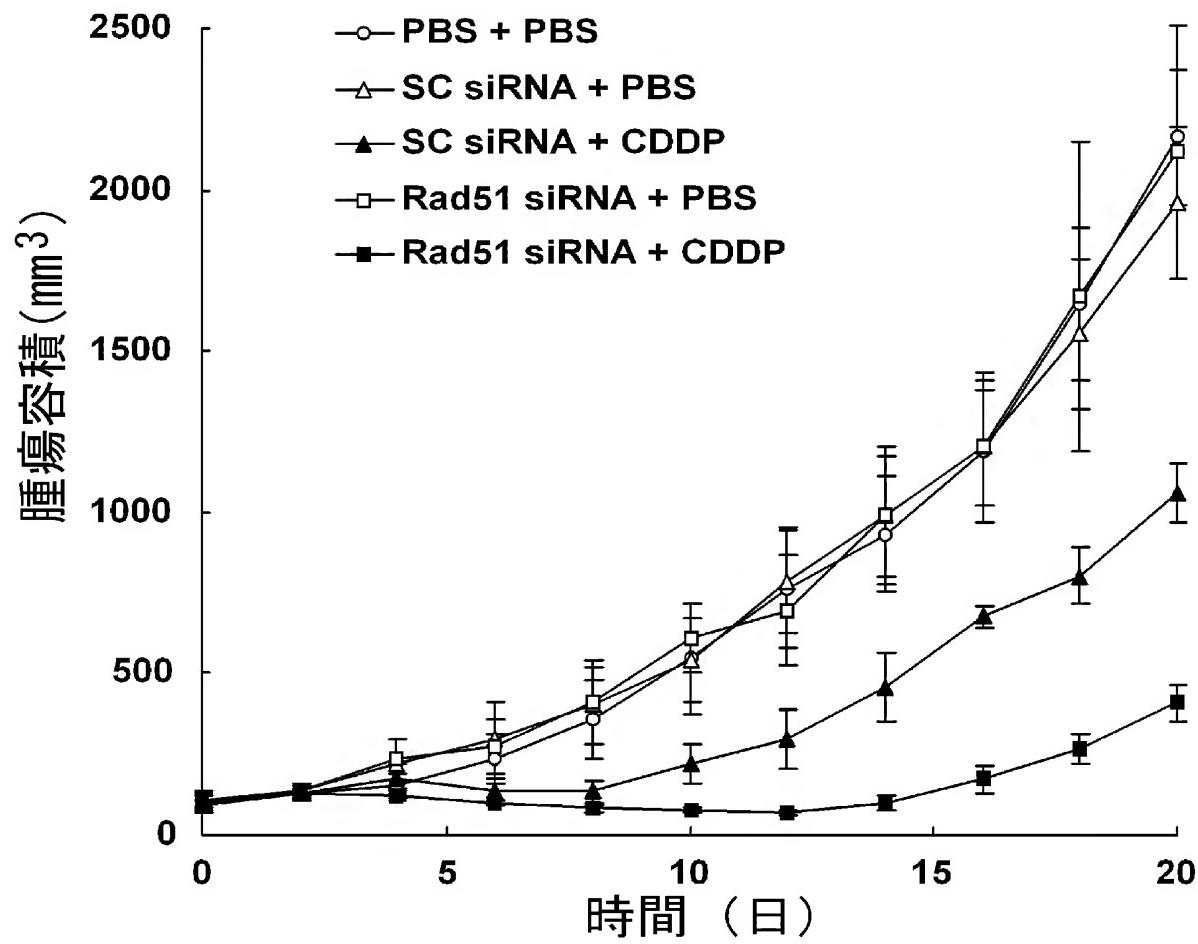
[図6]

A**B**

[図7]



[図8]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/006075

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ C12N15/12, A61K31/282, 31/7088, 33/24, 35/76, 38/00, 45/00,
48/00, A61P35/00, 43/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ C12N15/12, A61K31/282, 31/7088, 33/24, 35/76, 38/00, 45/00,
48/00, A61P35/00, 43/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

JSTPlus (JOIS), BIOSIS/WPI (DIALOG), CA (STN), REGISTRY (STN)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	Kayo YOSHIDA et al., "Honyurui Dobutsu Saibo no Hoshasen Kanjusei o Seigyoosuru, DNA Shufuku Idenshi no Hatsugen Yokusei", Radiation biology research communications, 2003, Vol.38, No.3, pages 286 to 300	1-28,33-34
Y	SHINOHARA A. et al., Cloning of human, mouse and fission yeast recombination genes homologous to RAD51 and recA, Nat Genet, 1993, Vol.4, No.3, pages 239 to 243	1-28,33-34
P, X	JP 2004-173512 A (Takashi MORITA), 24 June, 2004 (24.06.04), Full text (Family: none)	1-28,33-34

Further documents are listed in the continuation of Box C.

See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	
"A"	document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E"	earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L"	document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O"	document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P"	document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T"	later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&"	document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
07 July, 2005 (07.07.05)

Date of mailing of the international search report
26 July, 2005 (26.07.05)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Faxsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/006075

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
P, X	Takashi MORITA, "Kumikae Idenshi (Rad51) o Mochiita Nanji Gan no Hoshasen Chiryo", Gan Kenkyu ni Kakawaru Tokutei Ryoiki Kenkyu hokoku Shuroku, Heisei 15 Nendo, 31 March, 2004 (31.03.04), pages 367 to 369	1-28, 33-34
<u>P, X</u> <u>P, Y</u>	WO 2004/076622 A2 (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology), 10 September, 2004 (10.09.04), Full text (Family: none)	<u>1-5, 33</u> <u>6-28, 34</u>

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No. PCT/JP2005/006075
--

Box No. II Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 2 of first sheet)

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. Claims Nos.: 29-32
because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:
It involves methods for treatment of the human body by therapy.
2. Claims Nos.:
because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:
3. Claims Nos.:
because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box No. III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

"The special technical feature" of claims 1 to 34 resides in a double-stranded RNA which is composed of a sense strand containing SEQ ID NO:1 and its complementary strand and in which the length of the sense strand is not more than 100 bases, while "the special technical feature" of claims 35 to 39 resides in a medicinal composition containing an Rad51 inhibitor.

Since there is no technical relevancy between these invention groups involving one or more of the same or corresponding special technical features, these invention groups cannot be considered as being so linked as to form a single general inventive concept.

1. As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:
1 to 34.

Remark on Protest

- The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.
- No protest accompanied the payment of additional search fees.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl.⁷ C12N15/12, A61K31/282, 31/7088, 33/24, 35/76, 38/00, 45/00, 48/00, A61P35/00, 43/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl.⁷ C12N15/12, A61K31/282, 31/7088, 33/24, 35/76, 38/00, 45/00, 48/00, A61P35/00, 43/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

JSTPlus(JOIS) BIOSIS/WPI(DIALOG) CA(STN) REGISTRY(STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	吉田佳世 他, ほ乳動物細胞の放射線感受性を制御する DNA 修復遺伝子の発現抑制, 放射線生物研究, 2003, vol. 38, No. 3, pages 286-300	1-28, 33-34
Y	Shinohara A. et al., Cloning of human, mouse and fission yeast recombination genes homologous to RAD51 and recA, Nat Genet, 1993, Vol. 4, No. 3, pages 239-43	1-28, 33-34

 C欄の続きにも文献が列挙されている。

「パテントファミリーに関する別紙を参照。」

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

07.07.2005

国際調査報告の発送日

26.7.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

4N

3126

松田 芳子

電話番号 03-3581-1101 内線 3488

C (続き) 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
P X	JP 2004-173512 A (森田隆) 2004. 6. 24, 全文 (ファミリーなし)	1-28, 33-34
P X	森田隆, 組み換え遺伝子 (Rad51) を用いた難治がんの放射線治療, がん研究に係わる特定領域研究研究報告集録 平成15年度, 2004. 03. 31, pages 367-9	1-28, 33-34
<u>P X</u> <u>P Y</u>	WO 2004/076622 A2 (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) 2004. 09. 10, 全文 (ファミリーなし)	<u>1-5, 33</u> <u>6-28, 34</u>

第II欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見（第1ページの2の続き）

法第8条第3項（PCT17条(2)(a)）の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. 請求の範囲 29-32 は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。つまり、人の治療方法を含むものである。
2. 請求の範囲 _____ は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. 請求の範囲 _____ は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第III欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第1ページの3の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

請求の範囲1-34の「特別な技術的特徴」は、配列番号：1を含むセンス鎖とその相補鎖とで構成され、センス鎖の長さが100塩基以下である2本鎖RNAに関し、請求の範囲35-39の「特別な技術的特徴」は、Rad51インヒビターを含む医薬組成物に関するものである。

これらの発明は、一又は二以上の同一又は対応する特別な技術的特徴を含む技術的な関係はないから、単一の一般的発明概念を形成するように関連しているものとは認められない。

1. 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

1-34

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

- 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。